



熊本県人吉市 観音院さま

全国曹洞宗青年会 災害復興支援部 令和二年七月豪雨災害と

新型コロナウイルス感染症への対応

副会長 山田俊哉やまだしゅんさい

自然災害の多発する昨今、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）では災害復興支援部を組織し、加盟青年会や全国会員による被害情報の収集・発信・共有を行い、災害復興支援活動に尽力しております。昨年宗務庁と締結した「災害相互協力協約」を活かした関係諸団体との連携、さらに新規加盟したJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）を活かし、活発で円滑な支援活動が行えるよう努めております。

本年は令和二年七月豪雨により、九州から西日本、東日本の広い範囲で大変な被害となりました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。全曹青として支援活動を行うにあたり、新型コロナウイルス感染症への対応（以下、コロナ対応）が大きな障害となりました。JVOADの全国的なコロナ対応ボランティアガイドラインに従い、募集外の他地域から現地に入ることを避け、必要物資の供給や募金を行い



熊本県曹洞宗青年会 活動の様子

ました。現在でも状況は大きく変わらず、支援活動は被災地曹青会のみに限られ、大きな負担がかかっています。

熊本県では球磨川が氾濫し、広い範囲で甚大な被害を受けました。発災当初から曹洞宗熊本県第一・第二宗務所、熊本県曹洞宗青年会などによる支援活動が始まりました。現地のボランティアと共に家財出し、泥かき、壁はがし、洗浄、消毒等を行っています。

球磨村においては道路が寸断されしばらくの間立ち入ることができませんでした。三ヶ月が経つ十月現在でも未だ手付かずのお宅や戻ってこられない方が多くいます。球磨村の神照寺御住職、岩崎哲秀師（全曹青第二十期副会長）は寺院被害は免れたものの、集落が大きな被害を受け約百二十名がお寺へ避難されました。岩崎師を中心とした有志の方々が、家財出し、床下泥出し、洗浄などの実活動のほか、ボランティアの受け入れ、役場との話し合い、避難所への説明など地域の為に連日活動されています。地域の再生委員会を立ち上げ、皆が集える場として復興に向けた意見交換会を毎週土曜日に開催されています。一日も早い復興を願いながら、熊本曹青はじめ私たちも継続して支援していきます。

山形県では最上川が氾濫しました。山形曹洞宗青年会では延べ五十名でボランティア活動を展開しました。



山形曹洞宗青年会 活動の様子

社会福祉協議会ボランティアセンターを通しての活動の他、当初ボランティアセンター支援範囲から外れてしまった農作業小屋やビニールハウス、果樹園への支援を行いました。現地でコロナへの心配が広がる中、支援をためらい自分たちだけで頑張りすぎてしまうなど、水害復興に求められる即時性を欠いてしまう状況も見受けられました。被災地域の寺院を拠点に、そういった方々へもお声掛けし、被災者に寄り添った活動を心掛けました。

十月現在、未だ復興へは遠い被災地ですが、コロナ禍も続いています。全国組織としてできる支援を模索しつつ、今後起こりうる新たな災害への備えを続けていきます。

取材

全曹青事務局長

かなもりじょうゆう
金森成裕

(山形曹洞宗青年会所属)

全曹青庶務

なかのたいご
仲野大悟

(熊本県曹洞宗青年会所属)



●執筆者プロフィール
副会長

山田俊哉

秋田県曹洞宗青年会所属
全国曹洞宗青年会第二十二期事務局長

第二十三期副会長